

## 野村小学校の歴史 Q&A

120年以上の歴史がある野村小学校や野村地域には、多くの先輩達が学校や郷土野村に愛着をもち大切にしようと取り組んできた多くのドラマがあります。その中から、いくつかのことを紹介します。どうぞ読んでみてください。そして、みなさんも先輩達のように学校や郷土を大切に作る人になってください。

**Q1 「野村」という地名は、野原が多いことから付けられた、と聞いていますが、そのことについてもう少し詳しく教えてください。**

**A** 野村という地名は高岡という地名のつきかたと関係があります。江戸時代の終わり頃、高岡は関野せきのと呼ばれた野原の多いところで、関野村せきののむらと言っていました。しかし、次第に人々が住み始め、戸数が増えていきました。そこで、上関野村かみせきのむらと下関野村しもせきのむらに分かれました。その後、「下関野村」を二分して「下関」と「野村」とすることになりました。「野村」を初めて開いた人は、岩尾宗兵衛いわおそうへえさんであると言われていいます。詳しいことは分かりませんが、現在のパラダイスの裏の墓地には、この方の墓と伝えられている墓むらがあると言われていいます。現在の「深沢、出来田、井口本江、蓮花寺、三女子、野村、石瀬」の地区名は、それぞれの村ができた由来ははっきりしていませんが古くから別々の村でした。その後、明治22年に村制が施行されたことにより、これらの村が合併して新しい「野村」が誕生しました。

**Q2 野村には、世の中で活躍した有名な人物がたくさんおられたと聞きましたが、どのような人がいたのか教えてください。**

**A** 三人の人物を紹介します。

一人目は、幕末の頃、定塚町に住んでいた蓮花寺屋伝右衛門という人で、通称、大長さんといわれていました。高岡市千石町の長楽寺境内に「侠客大長の碑」という石碑があります。蓮花寺生まれで、本業は大工で、幼名を長右衛門といったので、人々は、大工の「大」と長右衛門の「長」をとって「大長」さんとよんでいました。大工としての生涯の功績は、大門大橋を架けたことです。この頃は、大門への橋は架かっておらず、また、庄川はあばれ川で渡し舟もなく、村人もたいへん不自由を感じていました。大長さんは人々のために何とか橋を架けたいと思って、何年間も藩主に「橋を架けさせてほしい」と願い出ました。やっと願いが通じて橋を架ける許可が出ました。大長さんは、橋の工事中、一滴も雨が降らなかったならば、お天道様に感謝して笠をかぶらないという誓いを立てたと言われていいます。工事期間中、彼の思いどおり一度も雨が降らず、見事に工事は完成しました。以来、死ぬまで一度も笠をかぶらなかったそうです。当時の人々の受けた恩恵はたいへん大きかったそうです。このように、人のために尽くし、決めたことは必ずやり抜くという信念をもった人でしたから、他にもエピソードもたくさんあったようです。「高岡の伝承」を読んで参考にしてください。

二人目は、吉田藤助よしだとうすけさんです。藤助さんの家は野村にありました。両親と子ども3人の5人暮らしでした。しかし、16歳の時、父が亡くなりました。一家の大黒柱を失った吉田家では、父に代わって藤助がはたらいて母を助け、家族を守っていきました。そんなこともあって、藤助は身体が大きいがんじょうになりました。この頃、人々の楽しみは祭りとはんもち大会でした。はんもち大会とは、力自慢を競う大会です。藤助は、横田ありそじんじやの有磯神社で行われたはんもち大会で米俵5俵（約300kg）を持ち上げ、さらにそれを投げ捨てるという怪力ぶりを発揮して優勝しました。このことは当時はたいへんな驚きでした。このことは高岡や近郷でも有名になり、二枚橋のところに藤助を讃える石碑が建てられました。また、藤助は道で人に話をするときも米俵を担いだままだったそうです。これを見ていた人たちは、「さすが藤助さん」と感心いしんしたと言ことばい伝えられています。

三人目は、石瀬屋六兵衛いしせやろくへえさんです。石瀬という名前から先祖は石瀬出身であろうといわれています。六兵衛は、母に親孝行を尽くし続け、寛政元年35歳でなくなっています。六兵衛さんのよい行いを世に広めるため、頒孝会はんこうかいが創られました。頒孝会では映画を作ることになり、その映画に野村青年団の人たちが出演したといわれています。数ヶ月後、この映画は完成し、公開、上映されるや連日満員の盛況が1週間も続いたといわれています。

### Q3 野村地域にはどんな苗字の家が多いですか。

- A 野村（第1～第5）には、「川端<sup>かわはた</sup>」、「坂林<sup>さかばやし</sup>」、「坪田<sup>つぼた</sup>」、「舟瀬<sup>ふなせ</sup>」、「三上<sup>みかみ</sup>」という苗字が多いです。「川端」、「舟瀬」は、川に関係している苗字です。よく発達している野村の水路が目に見えびびります。「安部<sup>あべ</sup>」、「蒲田<sup>かまた</sup>」、「楠<sup>くすのき</sup>」、「炭谷<sup>すみだに</sup>」、「田中<sup>たなか</sup>」は石瀬に多い苗字です。安部さんは石瀬でも古い家柄で先祖は京都からきたそうです。田中さんはさらに古く石瀬の先祖だったといわれています。また、少ない苗字ですが、浦垣<sup>うらかき</sup>さんも石瀬の古い家柄です。なお、石瀬では村の外れの蒲田秋芳さん宅を通称「東さん」、炭谷善四郎さん宅を「西さん」と呼んでいます。「金場<sup>かねば</sup>」と「河合<sup>がわい</sup>」はほとんどが蓮花寺です。河合の姓の人は、現在、庄川の河川敷となっている枇杷首<sup>びわくび</sup>から移転した人も多いようです。また、「谷道<sup>たにみち</sup>」、「三村<sup>みむら</sup>」、「森岡<sup>もりおか</sup>」は、三女子に多くみられる苗字で、この三家は三女子の開祖<sup>さくらい</sup>です。「桜井<sup>さくらい</sup>」と「松井<sup>まつい</sup>」は、「井口本江<sup>いぐちほんこう</sup>」に多い苗字です。この村は庄川の伏流水が湧出<sup>さえき</sup>しているところなので、水に関係した名前が多いのだらうと思われます。井口神社の神様を見つけた「佐伯<sup>さえき</sup>」姓もかなりあります。最後に「南」についてですが、この苗字は出来田に多いようです。一説によると「楠」から「木」をとって「南」としたと言われています。南亀二郎<sup>みなみかめじろう</sup>さんは、遠く楠木正成<sup>くすのきまさしげ</sup>にゆかりがある方で、大木によって助かったことがあったので、「楠」から「木」をぬいて「南」になったという説もあると言われました。また、田中の苗字が出来田に多いことも付け加えておきます。

### Q4 野村小学校は、いつできたのですか。

- A
- 明治22年（1889年）に、国のきまりで、市、町、村をつくることになりました。そのため、野村も含めた八つの村が合わさって一つの村ができ、村の名前を「野村」に決めました。それが、今の「野村」のはじまりです。八つの村というのは次の村です。  
（深沢村、出来田村、井口本江村、蓮花寺村、三女子村、野村、野村新村、石瀬村）  
新しい村役場は、村の真ん中の今のJAのところに建てられました。このころはまだ高岡市ではなく、射水郡（いみずぐん）とっていました。庄川の向こうにある今の射水市と同じ地域の中にありました。
  - 新しくできた「野村」の村議会で学校をどこにつくるかが話し合われました。今の野村地域と同じく南北に長い地域なので、子どもたちが通うことを考えていろいろと話し合われました。
  - その結果、ちょうどまん中につくろうということになり、役場といっしょにして野村小学校をつくりました。
  - 今から120年前の1890年（明治23年）4月1日につくられました。場所は、今の野村第4にある坪田さんという家を借りていたということです。その時の児童数は97人で、先生は1人でした。その先生の名前は、小島直一（こじまなおいち）先生で、「訓導兼校長」という役職でした。
  - 次の年、明治24年、今のJAがあるところに、新しく村役場を建てましたが、その建物と同居することで、野村小学校の建物が初めてつくられました。ぜんぶ木造でした。

### Q5 野村小学校は、できてからずっとこの場所にあるのですか。

- A 明治41年に、今の場所に新しく建てかえられました。大きさは、たてが約9m、横が24mの長方形をした木造校舎でした。完成を祝う落成式を行ったのが7月7日でした。このときから創校記念日を7月7日に決めました。

### Q6 その頃の授業は、どんな科目がありましたか。

- A 勉強は、修身（しゅうしん、今の道徳）、国語、算術（算数）、日本歴史、地理、理科、図書（としよ、図画）、唱歌（しょうか、今の音楽）、体操（体育）、裁縫（さいほう、今の家庭科）がありました。午前中4時間、午後2時間でした。学校へ自分の弟や妹を連れてきたり、おんぶしてきたりする者もいましたよ。

## Q7 校長先生は、今までに何人おられましたか。

A 現在の山崎校長先生をいれて39人おられます。会議室に写真があります。

## Q8 校歌はいつつくられたのですか。

A 今の校歌がつくられたのは、昭和27年（今から58年前）です。第62回創校記念日ではじめて披露されました。6月9日～7月3日まで4年生以上が毎日練習したそうです。

校歌を作詞、作曲されたのは、野村豊繁（のむらとよしげ）先生です。野村先生は、作詞や作曲が得意で、よくNHKのコンクールなどにも応募され、賞を受けておられたそうです。専門は理科で、授業もたいへん上手にされたそうです。校歌は時代の移りかわりによりつくりかえられてきています。本校の校歌も戦前は別の校歌がありました。

## Q9 校章は、いつつくられたのですか。

A 昭和31年につくられました。当時は学校に購買部（こうばいぶ）があって、学習に必要な物や校章のバッジや名札など学校で決められた物を売っていました。

## Q10 野口英世の胸像がありますが、どんな理由であるのですか。

A 昭和31年5月に、野口英世のような人間になってほしいという気持ちをこめて婦人会から贈られたものです。当時は、婦人会活動がさかんで、いろいろなところで活躍しておられました。婦人会は結婚された女性が入る会です。

## Q11 野村小学校の児童数が一番多かったのはいつ頃で、何人でしたか。 また、一番少なかったのはいつ頃で、何人でしたか。

A 一番少なかったのは、初めて野村小学校ができた時です。97人で1学級でした。一番多かったのは、昭和60年頃で、1,167人でした。学級数は29学級でした。

昭和40年頃から野村地区へ多くの住民が住むようになりました。新しく家を建てて住まれる場合がほとんどでした。野村校下の人口は増え続け、児童数も増えていきました。その時、4階建ての北校舎も建てられました。

野村小学校は、はじめて学校ができた時からずっと400人くらいの児童数の学校で、それに合う大きさで建てられていました。だから、急に児童数が増えたので、せまくなってきました。